

「元気発進！子どもプラン」次期計画策定検討資料

資料 3

3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり

【施策 8】放課後児童クラブ
★次期プラン★

現状	課題	施策の方向性・柱	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>◆登録児童数の増加が見込まれ、既存の施設のままでは、児童の生活スペースの確保が懸念される放課後児童クラブがある。</p> <p>◆放課後児童クラブは、多様な団体によって運営されており、運営に関するモデルプランを示しているもののクラブごとに開設時間や保護者負担金などが異なっている。</p> <p>◆全児童化に伴い、高学年児童や障害のある児童の利用が増加している。</p> <p>*登録児童数(平成25年4月1日) 9,510人(前年度比 430人増) うち、障害のある児童の数283人 (前年度比 38人増)</p> <p>◆学校や地域等との連携・協力による地域の特性を活かした活動については、放課後児童クラブによって取り組みに差がある。</p>	<p>○入所を希望する児童の受け入れができるように、施設の増設など、児童の生活スペースを確保することが必要</p> <p>○放課後児童クラブに対する利用者のニーズに応えられるよう利用内容の拡充を図ることが必要</p> <p>○国による児童の集団の規模の見直しに伴い、指導員の配置基準を見直すことが必要</p> <p>○指導員の質の向上を図るため研修の充実を図ることが必要</p> <p>○障害のある児童をはじめとする利用者数の増加に伴い、小学校等の関係機関とのより一層の連携が必要。</p> <p>○運営規模の拡大に伴い、運営団体への支援が必要</p> <p>○国より、新たに指導員に関する資格基準が示され、有資格者を配置することが必要</p> <p>○従来の「安全な子どもの居場所づくり」の視点だけでなく、学校や地域との連携を通じ、思いやりの心を持ち、自立した子どもを育てていくことが必要</p>	<p>〔方向性〕 希望するすべての子どもが入所でき、充実した活動ができる放課後児童クラブの実現</p> <p>〔柱〕 放課後児童クラブの運営基盤の強化 施設整備や利用内容の充実など、運営基盤の拡充を図る。</p> <p>○放課後児童クラブの魅力向上 指導員の資質向上の促進など運営体制の充実を図るとともに、放課後児童クラブの活動内容の充実を目指して、学校や地域との連携を図り、魅力ある放課後児童クラブの運営を促進する。</p>	<p>○放課後児童クラブの待機児童数(4月1日現在) 目標:0人(H31)</p> <p>○放課後児童クラブに対する満足度(施設・環境) 目標:向上</p> <p>○放課後児童クラブに対する満足度(利用日・利用時間) 目標:向上</p> <p>○研修を受講した指導員の割合 目標:向上(H31)</p>	<p>〔放課後児童クラブの運営基盤の強化〕 ○放課後児童健全育成事業(児童受入のための施設整備) ・児童数の増加により、生活スペースの確保が難しくなる放課後児童クラブについて、計画的に施設の増設等を行う。</p> <p>○放課後児童クラブ運営費(利用内容の充実) ・利用者ニーズに対応するため、クラブの開設時間のさらなる延長や保護者負担金等の標準化を推進する。</p> <p>・児童に適切な指導が行えるよう、児童概ね40人に対して指導員の2人配置を促進する。</p> <p>〔放課後児童クラブの魅力向上〕 ○放課後児童健全育成事業(運営体制の充実) ・障害のある児童等への対応が適切に行えるよう、体系的な研修制度の整備や、巡回カウンセラーの派遣などにより、指導員の資質向上を図る。 ・放課後児童クラブアドバイザーの派遣等を通じて、クラブと学校との相互の連携づくりを促進する。 ・指導員の雇用手続等、運営事務に関する専門研修の実施や巡回相談を行う。</p> <p>・指導員に有資格者となるための研修を受講させ、資格取得を促進する。</p> <p>○放課後児童ヘルパーの活用 ・地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくため、地域の人材を「放課後児童ヘルパー」とし、活動を支援していく。</p> <p>○夏の教室(地域版)の実施 ・放課後児童ヘルパー等の地域力の活用などにより、夏季休業日中に小学校で1週間程度実施されている「夏の教室」の地域版等を放課後児童クラブで実施し、生活体験やスポーツなど体験の機会を増やすとともに、学習習慣を養う。</p> <p>○放課後ジュニアリーダープログラムの展開 ・高学年児童をジュニアリーダーとし、指導員、放課後児童ヘルパーとともに、低学年児童等のお世話をすることで、高学年児童の思いやりの心や自立を促す。</p>

「元気発進！子どもプラン」次期計画策定検討資料

3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり

【施策 8】放課後児童クラブ

★次期プラン★

☆参考：現行プラン☆

現状	課題	施策の方向性・柱 (基本施策)	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>○放課後児童クラブの全児童化を実施するため、平成22年度までに必要な施設や体制の整備を行っているが、整備が完了していないために入所希望者を受け入れることができないクラブがある。</p> <p>○登録児童数が増加傾向にある中で、国のガイドラインに基づく整備が完了していないため、子どもの生活スペースが十分確保されていないクラブがある。</p> <p>○国のガイドラインでは、登録児童数は最大70人までとすることとされているが、登録児童数71人以上となっているクラブがある。</p> <p>○放課後児童クラブは、校区社会福祉協議会などの地域団体や社会福祉法人など多様な団体によって運営されており、運営に関するモデルプランを示しているものの、クラブごとに開設日や開設時間などの運営状況に違いがある。</p> <p>○放課後児童クラブに対する市民ニーズが多様化するとともに、全児童化に伴い、高学年児童や障害のある子どもの入所が増加している。</p> <p>○学校や地域等との連携、協力による地域や放課後児童クラブの特性を活かした活動については、それぞれの放課後児童クラブによって取り組みに差がある。</p>	<p>○全児童化を計画どおり推進し、待機児童の解消などの放課後児童クラブの課題解決を図ることが必要</p> <p>○入所希望児童数に応じて、国のガイドラインに基づく施設整備を行い、子どもの生活スペースや静養スペースを確保するとともに、登録児童数71人以上の大規模クラブの分割を行うことが必要</p> <p>○放課後児童クラブに対するさまざまなニーズに応えられるよう運営の質を高めることが必要</p> <p>○従来の「安全な子どもの居場所づくり」との視点だけでなく、学校や地域との連携を通じ、思いやりの心を持ち、自立した子どもを育ていくことが必要</p>	<p>[方向性] 希望するすべての子どもが入所でき、充実した活動ができる放課後児童クラブの実現</p> <p>[柱] 放課後児童クラブの運営基盤の強化</p> <p>○放課後児童クラブの魅力向上</p>	<p>○放課後児童クラブの待機児童数(4月1日現在) 目標:0人(H26)</p> <p>○放課後児童クラブ登録児童数が71人以上の大規模クラブ数 目標:0クラブ(H26)</p> <p>○放課後児童クラブに対する満足度(施設・環境) 目標:向上</p> <p>○放課後児童クラブに対する満足度(利用日・利用時間) 目標:向上</p>	<p>○全児童化のための施設整備</p> <p>○放課後児童クラブの運営体制の基盤整備</p> <p>○総合療育センター等の専門スタッフの派遣</p> <p>○放課後児童ヘルパーの設置</p> <p>○夏の教室(地域版)の実施</p> <p>○放課後ジュニアリーダープログラムの展開</p>